

1997年9月～2017年7月に当科で自家移植を施行した
多発性骨髄腫の患者様へ
治療成績の後方視的研究へのご協力をお願い

大分県厚生連鶴見病院血液内科では、上記に該当される患者様の診療情報等を利用して、当院での多発性骨髄腫の治療成績の後方視的検討を行うこととしました。研究の内容については当院の臨床研究倫理審査委員会にて許可されております。本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合、または研究について詳細にお知りになりたい場合は担当医にお声かけください。

【研究課題名】

多発性骨髄腫に対する自家移植の治療成績に関する後方視的検討

【研究責任者】

大分県厚生連鶴見病院血液内科 佐分利益穂

【研究の対象となる方】

当科で1997年9月～2017年7月までに自家移植を施行された多発性骨髄腫の患者様

【研究の概要】

近年、サリドマイド、ボルテゾミブ、レナリドマイド等の新規薬剤の登場により、多発性骨髄腫の治療成績は大きく改善しています。しかしながら、臓器機能の保たれた若年者を主とした移植適応症例に対する自家移植は依然として標準的な治療方法であり、当科においても1997年から多発性骨髄腫に対する自家移植を行ってきました。特に、新規薬剤登場以降に、治療成績がどう変化したかについて後方視的に検討を行います。

【研究の意義】

当院における自家移植の現状と課題を明らかとし、治療成績の更なる向上に寄与することと目的としております。

【研究（調査）の方法・期間】

対象となる患者様の臨床データを医療記録及び医師が作成した経過表から収集します。収集したデータから特に新規薬剤による導入療法の有無で移植後奏功、無増悪生存期間、全生存期間、生着、有害事象を比較検討します。また、全例を対象として生存に影響する因子の検討も行います。加えて、新規薬剤による移植後療法が行われた症例についてはその有効性と有害事象を検討します。研究期間は研究許可日から2018年2月28日までです。

【個人情報に関する配慮】

連結可能匿名化を行い、対応表は鍵のかかる庫で保管します。得られた結果は、学会や医学雑誌に発表されることとなりますが、研究の結果を公表する際は個人が特定できないようプライバシーに配慮致します。

【患者の利益と不利益】

この研究では治療介入を行いません。実地医療の結果を調べる後ろ向き観察研究であり、本研究に参加することによる患者様の利益、不利益はともにありません。

研究の趣旨を御理解いただき、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。もし、本研究に該当される可能性のある方で、ご自分の診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は担当医もしくは以下にご相談ください。

【お問い合わせ先】

〒874-8585 大分県別府市大字鶴見 4333 番地
大分県厚生連 鶴見病院 血液内科 佐分利益穂
電話番号（代表）：0977-23-7111